



吉崎別院便り

バラバラでいっしょ！ になれるところ



↑ 宗務総長追彰伝達授与式の様子

大聖寺教区光闡坊・佐野明弘師 中村清氏との思いでを法話に

中村氏とともに聴聞をし、輪読会など活発に交流を深めてきた佐野師は、法話の中で「中村さんは、分かったということを決して言わなかった。分かった顔もしなかった。聴聞の場を自宅でたくさん開き、たくさん聴聞の場をととも大切にしていた。静かに語り、中村氏にお育てをいただいた恩徳と、後を生きる者の間法姿勢を確認なさっていました。」

昨年4月9日に92歳で還浄された中村清氏の追悼顕彰法要が、3月25日蓮如上人御影道中協力会と蓮如講の主催で執り行われました。法要には中村家ご家族、ご親戚をはじめ、全国各地の協力会員と蓮如講員約60名が参詣され、中村氏のご苦勞を偲びつつ勤行と法話に耳を傾けました。中村清氏は、「蓮如上人御影道中協力会（平成12年創設）」と「蓮如講（平成17年創設）」の創設者であり、協力会においては、蓮如上人御影道中の伝統保持と運営補佐の組織的体制を整え、蓮如講においても、蓮如上人に由縁を持つ吉崎別院の存在意義を、講組織の中で確かめ続ける大切さを熱心に呼び掛け続けた方でした。法要の中で挨拶を務めた谷口敏協力会長と杉田和一蓮如講長は、「中村清氏の意志を受け継ぎ」両組織並びに吉崎別院の発展と、まもなく勤修される蓮如上人御影道中と御忌法要の興隆に尽力していく決意を語っていました。



「中村清氏追悼顕彰法要」 を勤める